

## SB40 サイドイベント傍聴報告

2014年6月6日

一般社団法人海外環境協力センター (OECC)

本傍聴報告は、2014年6月4日～15日にドイツ・ボンで開催された国連気候変動枠組条約第40回補助機関会合 (SB40) において開催されたサイドイベントの傍聴報告です。

- タイトル：非附属書 I 国による国別報告書の提出に係る近況 (“Latest submission of National Communications from Non-Annex I Parties”)
- イベントの種類：サイドイベント
- 日時：2014年6月6日 (金) 13:15-14:45
- 主催：UNFCCC
- 会場：ドイツ環境省 (Solar)
- プレゼンター： Jigme 氏 (UNFCCC)、Don Cooper 氏 (UNFCCC)、Samuel Jore Adejuwon 氏 (ナイジェリア)、Marius Taranu 氏 (モルドバ)、Aderito Santana 氏 (サントメ・プリンシペ)、Yamil Bunduk 氏 (UNDP)、George Monful 氏 (UNEP)、Uazama Kaura 氏 (UNFCCC)

### ■ 概要

- 冒頭、ナイジェリア、モルドバ、サントメ・プリンシペの 3 カ国代表より国別報告書の提出状況及び課題と展望について発表がなされた。国別報告書や隔年報告書を作成する必要がある非附属書 I 国は、それぞれの知見と経験を共有していくことが重要であり、その支援策の一つである GEF によるグローバルサポートプログラム (Global Support Programme) について UNEP 及び UNDP から紹介がなされた。また、UNFCCC からも非附属書 I 国が活用可能なツールやトレーニング等について発表が行われた。

### ■ 発表内容

1. 「国別報告書提出に関する報告」(ナイジェリア、モルドバ、サントメ・プリンシペ代表者)
  - ナイジェリアについては第 2 次国別報告書を 2014 年 3 月に提出している。エネルギーセクターによる排出が最も大きく、全体の 70% を占めている。緩和プロジェクトとしては、排熱利用及びかまどの効率化のポテンシャルが高い。活動データや排出係数の不備等、技術的な課題が多く、今後の挑戦として専門家の参加及びインベントリ作成のためのチームの編成等を検討している。第 3 次国別報告書及び隔年報告書作成支援のための Project Identification Form (PIF) を既に UNDP に提出した。
  - モルドバについては、第 3 次国別報告書と温室効果ガスインベントリ報告書 (National Inventory Report) を 2014 年 1 月に提出した。1990 年以降モルドバの GHG 排出量は

減少しており、2010年時点ではエネルギーセクターからの排出が全体の68%を占めている。適応シナリオ及び3つの緩和シナリオを検討しており、これらの結果はLEDS/NAMAs、NAPs等に活用されている。作成に当たってはデータの収集等の技術的課題及びソフトウェアやモデルのライセンスを取得するための資金的課題に直面したが、独自の方法で農業分野の算定を行うなど、他国にも参考となる良い経験を積んでいる。2017年12月まで第3次国別報告書及び隔年報告書の作成作業を実施する予定である。

- サントメ・プリンシペについては第2次国別報告書を2012年10月に提出している。現状では森林による吸収量が排出量を上回っているが、今後のエネルギーセクターによる排出量の増加を緩和するために、水力・太陽光・風力発電の導入等を検討している。ポルトガル語のガイドラインが存在しないため、作業は困難であったが、第3次国別報告書の作成を2014年中に開始する予定である。
2. 「非附属書I国による隔年報告書及び国別報告書の準備に係る支援プログラム (Global Support Programme for Preparation of National Communications and Biennial Update Reports for Non Annex I Parties under the UNFCCC)」 (UNDP/UNEP)
- グローバルサポートプログラムはCOP決定に基づいて、隔年報告書及び国別報告書の準備に係る支援を行っている。715万ドルの資金がGEFより提供されており、2014年から2019年までの5年間に渡ってUNDP/UNEPにより実施されている。技術的なアドバイスを提供する専門家の派遣及び南南協力の推進等の支援も行っている。
3. 「非附属書I国へのUNFCCCの支援 (UNFCCC Technical resources available to facilitate reporting for non-Annex I Parties)」 (UNFCCC)
- COP19の決定に基づき、UNFCCCはConsultative Group of Experts (CGE)を構成し、トレーニング資料の作成やワークショップの開催を行っている。

#### ■ 質疑応答

- Q. (ヨルダン) : (モルドバへの質問) モデルにインプットする緩和行動は何を基に選択したのか。モルドバの緩和目標は何か。モデル/ソフトウェアは高額なものが多いため、支援をしてもらえると嬉しい。
- Q. (不明) : 脆弱性と気候変動への適応能力評価 (Vulnerability & Adaptation Assessment) を、以前提出した国別報告書と同じ地点で行っているが、適切だろうか。
- Q. (不明) : (モルドバへの質問) モデル使用に係る知見を共有してもらえないか。グローバルサポートプログラムを通じて、専門家によるコンサルテーションを受けることは可能か。
- A. (モルドバ) : モルドバでは2010年以降策定された緩和政策に沿って緩和行動の選択を行った。モルドバの1990年比で25%削減は容易に達成が可能と考えており、見直しを行う予

定である。モデルの使用に関しては、グローバルサポートプログラムの枠組みの中で、国内の専門家がトレーニングを受ける機会があった。第4次国別報告書では第5次IPCCレポートで使用されているより先進的なモデルを使用する予定である。

A. (UNEP/UNDP)：無償のモデル（LEAPモデル等）も存在するが、それぞれの国にふさわしいモデルの選定を行う支援をグローバルサポートプログラムの中で行っている。脆弱性と気候変動への適応能力評価（V&Aアセスメント）については、前回提出した国別報告書と同じ河川で評価を行うのではなく、異なる河川を対象にするべきである。同じ河川の場合、結果が同じになってしまう可能性が高い。GEFの拠出金はすべての非附属書I国の支援を行うには足りないため、二国間での相互レビュー（南南協力）を行うことを推奨する。

（報告者：OECC 金子 絵美）

---

サイドイベント傍聴報告については以下をご覧ください。

日本語版

[http://www.mmechanisms.org/info/event/details\\_oecc\\_SB40report.html](http://www.mmechanisms.org/info/event/details_oecc_SB40report.html)